

POWER!

2017年
9月
vol. **53**

平成29年(2017年)
9月20日発行

発行所 ● 日本薬剤師連盟
〒160-0004
東京都新宿区四谷4-3
四谷トーセイビル2階
TEL (03) 3225-3100
FAX (03) 3225-3200

発行月 ● 隔月(奇数月)発行

<http://www.yakuren.jp>



群馬県 7月2日 理事及び地域職域薬剤師会長等合同会議



千葉県 7月3日 本田あきこさんと語る会



茨城県 7月6日 薬剤師連盟拡大会議



愛知県 7月15日 薬剤師連盟総会



徳島県 7月19日 徳島市薬剤師会合同ブロック会



香川県 7月20日 薬局訪問



福島県 7月22日 地域薬剤師会連絡協議会



石川県 7月23日 理事・支部長・職域部長・薬連評議員合同会議



静岡県 7月30日 地域・職域連絡協議会



宮城県 8月3日 薬局訪問



福井県 8月5日 本田あきこ氏と語る会



愛媛県 8月25日 本田あきこ氏と語る会



高知県 8月26日 薬剤師連盟及び関係団体連絡協議会



兵庫県 8月27日 県薬・県病薬連携1周年記念大会



**本田あきこ副会長、
全国訪問の旅**

第三弾

**とかしきなおみ衆議院議員、
環境副大臣に就任**

薬剤師議員であるとかしきなおみ衆議院議員が、本年8月3日に発足した第3次安倍第3次改造内閣において環境副大臣に就任いたしました。



本田あきこ副会長の全国訪問の旅は、POWER! 5月号、7月号で紹介した都道県に加えて8月末までに、群馬県、千葉県、茨城県、愛知県、徳島県、香川県、福島県、石川県、静岡県、宮城県、福井県、愛媛県、高知県、兵庫県を訪問した。いずれの訪問にも、原則として山本会長、時に日本薬剤師連盟の役員が同行し、都道府県薬剤師連盟の役員の方々に本田副会長を紹介した後、本人から政治理念等を交えた挨拶がなされている。

県によっては役員や支部長が参加する会合での挨拶に加えて、薬局訪問や本田あきこ氏と語る会のような集会において講演を行っている。

九州から始められた全国訪問の旅は、33都道県が終了し、残り14府県となっている。

本田副会長は、全国訪問の間をぬって、地元における各種会合、母校である星薬科大学同窓会の代議員総会への参加、支援団体への訪問等も行っている。

風力計

本田あきこ 応援団

本年5月より日本薬剤師連盟常任総務に任命されました熊本県の江上です。

本田あきこ副会長の地元・熊本ということで、日本薬剤師連盟と熊本県薬剤師連盟の、そして本田あきこ副会長の地元後援会・顕政会との意思疎通を図るために任命されたものと、重責を感じ、奮起している毎日です。

我々熊本会の会員は仲間でもあり、彼女の人も分かっていますし、また本田副会長は政治家になって活動したいという強い意思と意欲を持たれています。この度の任命に当たり、彼女を応援し後援会活動が出来る喜びを一層強く感じています。

後援会活動は熊本を皮切りに4月から九州キャラバンが始まり、各県を4日間ずつかけて1軒でも多くの薬局を訪問し、先生方や職員の方々に挨拶をし、握手をし、笑顔で会話をし、まず薬剤師の先生から現場の生の声を聞くために駆けずり廻りました。今は各県の色々なイベントに呼んで頂きそこにおいての先生方にご挨拶をして、時間があれば近隣の薬局を訪問出来ればと飛び廻っている毎日です。私も県内の薬局回りや卸、販売店回りを一緒に行動しましたが、それはとてもハードな毎日でした。でも本田あきこはタフです!とても元気で、一人でも多くの先生方と言葉を交わし、多くの人達と握手し、ご縁を得られることに燃えています。

熊本は全力で頑張ります!全国の先生方もしっかりと本田あきこ副会長を支援、育てて頂きますようよろしくお願い申し上げます。



日本薬剤師連盟
常任総務 江上 祥一



ファーマくんがゆく

日本薬剤師会 石井甲一副会長を お訪ねしました



「ファーマくんがゆく」の日本薬剤師会副会長シリーズの最終回は、石井甲一副会長に登場していただきます。

ファーマくん：以下、ファーマ こんにちは。石井副会長は日本薬剤師連盟の副会長でもありますが、毎日のお会いしておりますが、今日は、日本薬剤師会の副会長のお立場で質問に答えていただきます。



石井甲一(いしいこういち)副会長
プロフィール

- 昭和49年東京理科大学薬学部卒業
- 同年、厚生省(当時)入省。
- 平成15年2月より22年10月まで日薬専務理事。
- 同年11月より平成26年6月まで藤井基之参議院議員政策担当秘書。
- 平成26年6月より日薬副会長。

ことです。しょうがなく付き合ったところ、一ヶ月年下だと分かり、その後名前を呼び捨てするようにになりました。ファーマ 夫婦がうまくいく秘訣を教えてください。

石井副会長 無理せず趣味を同じくすることですね。登山は初めからですが、マラソン、テニス、ゴルフの順に私が始める。遅れて家内がついてきました。ファーマ おのろけですね。ご家族構成を教えてください。

石井副会長 今は、夫婦二人だけです。子供は女子二人で、既に社会人です。私の実家では、父を除き、祖母と母、二人の妹という女系の中で過ごし、妹二人とも子供はそれぞれ二人の女子でした。ファーマ 珍しい環境で過ごされたんですね。ところで、人生におけるお好きな言葉、モットー等を教えてください。

石井副会長 好きな言葉は誠心誠意、モットーとしているのは一行三昧です。ファーマ 次に、ふるさと自慢をお願

いします。

石井副会長 生まれは、山梨県北杜市白州町です。サントリーのウイスキー工場があるところですね。自慢できるものとしては、サントリーの南アルプス天然水のように、おいしい水と豊かな自然というところでしょうか。大変な田舎です。

ファーマ 最後に、日本薬剤師会副会長として、今後最も力を入れていきたいことを教えてください。

石井副会長 日薬では、法制委員会、編集委員会及びアンチ・ドレーピング委員会を担当しています。一方、総務担当として日薬の活動全般を把握する立場から最も力を入れたいのは、すべての国民の皆さんに、いわゆる医薬分業制度が受け入れられ、誰もが「かかりつけ薬剤師・薬局」を持つにたける社会の実現に向けて、会長を筆頭に執行部全員がそれぞれの役割を通じて、的確に業務を行える環境を作ることと認識しています。

処方箋受け取り率は70%を超え、処方箋枚数も8億枚となりましたが、真に受け入れられているかといえば、不安なところもあります。また、本年は偽造薬の流通、不正請求等の事件もありました。薬剤師が誇りをもち国民の健康を守るといふ責務を果たせるような社会を目指したいと思っています。ファーマ 本日は、貴重かつ楽しいお話をありがとうございました。これからも薬剤師のために活躍いただきことを期待しております。



編集後記

「伝統」を受け継ぐとは？

昭和50年の初産年齢は25.7歳。平成27年は30.7歳になった。江戸時代の初産年齢が20歳未満であったことを考えれば、一世代はもっと短くなる。充分な教育もなく、親からの教えに疑問を抱くことなく受け継げば、伝統が崩れることはなかったろう。

しかし、伝統とは変わらないことではない。国技相撲の土俵は、昭和27年に、賛否の議論を経て土俵柱が房に変わった。医薬分業の概念も単なる調剤行為から人を見る視点に変わってきている。歴史を辿ると、当たり前が当たり前ではない世界があったことに驚く。

時代が変わるとき徐々に変わる様に思うが、劇的に変わることがある。近年においては明治維新(1868年)と太平洋戦争終戦(1945年)がある。共に薬剤師像が激変した。また、昭和30年前後の医薬分業闘争や昭和49年を医薬分業元年とする歴史もあった。

長寿社会となり、「真似て・学んで・造り出す」時間が延びた。経済物流・ICTが激変する現世で「患者のための薬局ビジョン」は、20年程度で確実に薬剤師を変えることになる。法律が変われば制度が変わるが、変えてはいけない「心(こころ)及びしん」が伝統にある。それを身に付けている者が継承者だ。その未来を委ねられるのは本田あきこ副会長しかないのではなからうか！

(Y・T)

広報委員

- 安東 哲也、石井 甲一
- 小野 春夫、鳥海 良寛
- 大澤 泰輔、大原 整
- 近藤直緒美、渡邊美知子

もとゆき Report

藤井もとゆき国会レポート

薬剤師・薬学博士
自由民主党組織運動本部本部長代理・参議院議員
藤井もとゆき



平成30年度予算概算要求

8月3日に第3次安倍改造内閣が発足、同日決まった幹事長、政務調査会長、総務会長の自民党3役以外の役員人事も順次決定し、その組織運営体制は固まりました。

私は、自民党総務会に引き続き所属するのに加え、組織運動本部の本部長代理を衆議院の小淵優子議員とともに命じられました。自民党の組織運動本部は、各種の事業者団体や専門家団体との交流等により、広範かつ専門的な意見を収集する団体総局、都道府県連や地方議員との窓口である地方組織・議員総局等の6つの局を持ち、多くの国民との交流をして支持を広げていく、いわば自民党の政治運動の責任組織となるものです。来年末までには行われる衆議院議員選挙、そして再来年夏の参議院議員選挙、我が党の勝利を目指して組織強化に取り組んで参りたいと思います。

さて、各省庁の平成30年度予算概算要求が提出されました。厚生労働省の一般会計の要求総額は、前年度当初予算に比べ2.4%増の31兆4,298億円、このうち医療・介護・年金等の社会保障に係わる経費は、2.3%増の29兆4,972億円と、いずれも過去最大規模となっています。

薬剤師・薬局に関連するものでは、高齢者のポリファーマシーの増加に伴う副作用の増強や薬物相互作用の発現等に対応した各種ガイドラインの整備を進めるなど、高齢者の薬物療法の安全対策を推進する事業として、2億1千万円を新規に要求しています。また、かかりつけ薬剤師・薬局として地域包括ケア等に貢献するモデル事業の実施等、「患者のための薬局ビジョン」の早期実現を目指す事業として、前年に比べ約4千5百万円増の2億4千万円を要求しています。

来年4月には医療報酬と介護報酬の同時改定が控えており、年末の予算編成に向け、政府、与党内で激しい議論が交わされるものと思われます。薬剤師・薬局が適正な医療を担い国民の期待に応えられるよう、必要な予算確保に全力で努めて参ります。